

歴女がゆく

私が出逢ったディープな中世



Deep!

ココが中世!

流谷には、八幡神社を中心に棚田・ため池・民家などが分布し、このような景観は江戸時代の絵図にも描かれています。中世の古文書や湯釜も残され、古くから人々の営みが盛んであったことがわかります。



湯釜

松明屋周辺はのどかな風景が続きます。真っ赤に色づいた南天もよく見かけました♪



御所ノ辻地蔵堂



流谷の里山風景

松明屋



八幡神社

赤い橋が目印。御神木のイチヨウは樹齢400年以上だとか!

高野街道 後編

空海・南朝伝説と

中世の面影残す里山集落

和歌山との境に近く、山間部を通る千早口〜天見の街道沿いには、中世ゆかりの伝説や里山集落が残ります。

高野街道は、本市南部にいたるにつれ山間部を通るようになり、付近には空海(弘法大師)や南北朝時代にまつわる伝説が多く残ります。千早口駅近くの御所ノ辻には、南朝の後村上天皇が金剛寺に向かう途中、ここで一夜を明かしたなどと伝わります。そこから南の松明屋では、空海がふるまわれた粽に永代不滅の加持祈禱をしたことから、厄除けの粽作りが盛んになったとされます。天見駅近くの出合ノ辻は、楠木正成軍が紀州から攻めてきた武士たちと出合ったといわれています。出合ノ辻から高野街道を少し外れたところにある流谷。そこは中世の時代に石清水八幡宮の領地「甲斐庄山郷」がありました。集落の中ほどには八幡神社があり、「勧請(かんじう)かけ神事」が正月におこなわれます。この神事は神社のご神体を石清水八幡宮から勧請するとき、谷に縄をかけて渡したという伝説に基づき祭礼です。

今回の歴女 琴子さん

歴史が大好きで将来は考古学者になりたいと思っています。観心寺や烏帽子形城跡にはよく行きますが、天見の辺りは初めてだったので、ワクワクしました。もっと河内長野の歴史を詳しく知りたいと思いました。



中世トリビア⑦ 空海伝説

平安時代後期以降、高野山の隆盛にともない、空海への信仰や伝説も各地に広がりました。高野山に近い本市域にも、これまで紹介した盛松寺や月輪寺、青賀原神社をはじめ、多くの伝説が残され、空海は地域の人々にとって身近な存在となっています。



▲盛松寺蔵